大規模都市公園再整備事業の評価に関する研究

～海南市中央公園を事例として～

景観生態学研究室

60206254　溝内 咲子

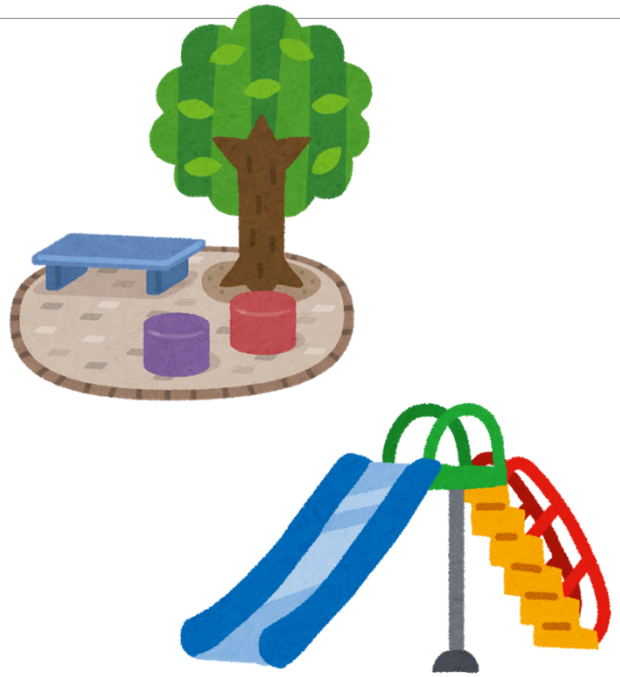
背景

- 多様な役割を持つ都市公園
  - 憩いの場
  - 環境保全　etc…市民の生活の質を高める

- 新たなニーズの発生
  - 社会情勢の変化：防災
  - 利用者等の思い

↓

公園再整備事業



背景

社会情勢と利用者のニーズの双方に配慮した整備が必要だが･･･

整備で実際に何が行われるのか利用者に伝わっていない可能性

事業者と実際の利用者の思い描く整備事業にはずれがある？

社会情勢の変化に応じて再整備がすすめられる公園において
利用者のニーズを把握し、その側面から再整備事業の評価をする必要性

目的

- 利用者の再整備事業への認知度
- 事業者、利用者が持つ再整備の捉え方のずれ
- 実際に利用者が感じる公園の特徴・魅力

を明らかにし、市民意識の側面から公園再整備事業の評価を行う

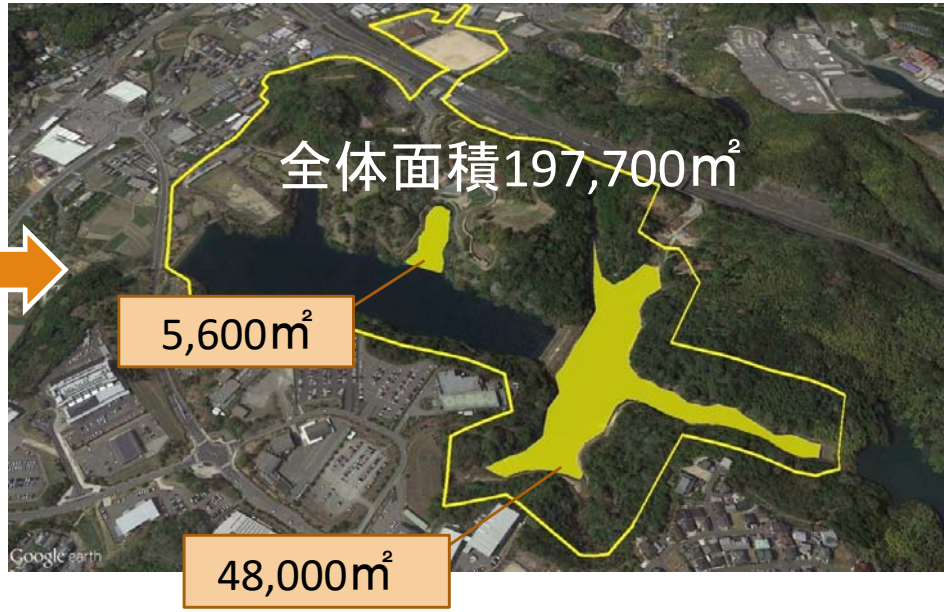
対象地:海南市中央公園

防災拠点として概ね5年間での公園整備計画

公園の再整備・価値の見直しが増えると予想される
今後の公園整備上、重要な知見が得られる

出典:海南市

埋立事業：防災拠点やレクリエーションに



：埋立範囲

研究方法

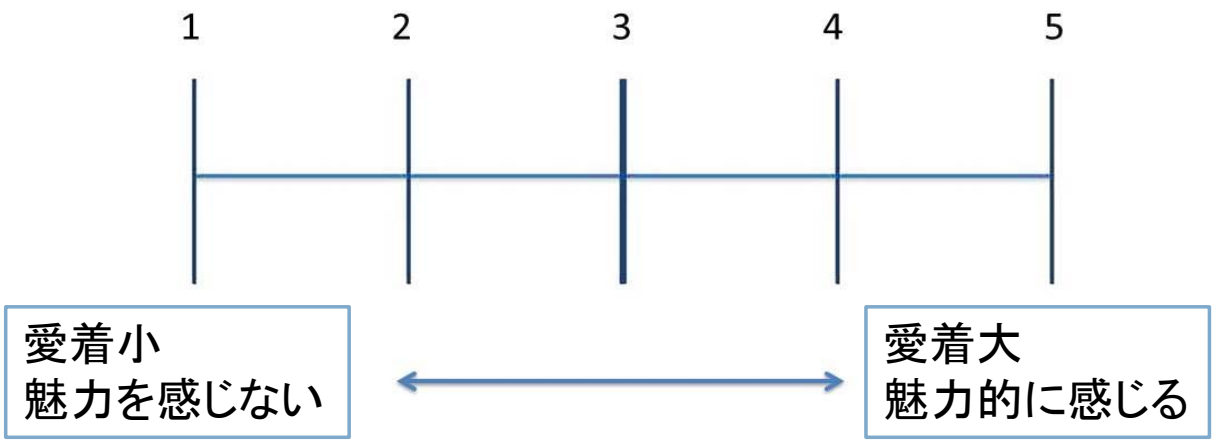
事業者である海南市と公園利用者にインタビューを行い、両者の整備への意識をそれぞれ調査する。

対象者	海南市都市整備課2名	海南市中央公園利用者35名
調査期間	10月29日(月) 10:30-11:30	11月25日(日)10:00-16:30
時間	約1時間	約10分
形式	対面聞き取り式半構造化インタビュー	対面聞き取り式半構造化インタビュー
調査項目	1. 市民参加の方法、状況 2. 減水補償にかかるコスト 3. 池の埋立を行わない場合のコスト 4. 埋立によって起こる影響の捉え方	1. 利用者の属性 2. 公園の利用形態 3. 公園への印象 4. 池とその埋立への印象 5. 将来の公園利用意志

研究方法

愛着度の調査

公園利用者の公園への愛着度と公園内部の池の魅力をそれぞれ5点満点で回答してもらった



結果・考察

事業者へのインタビューより

市民参加の機会

- 利用者アンケート(2017年8月、293名)
- 意見交換のワークショップ
- 有識者を招いての懇話会
- パブリックコメントの募集

多様な主体を対象に、
さまざまな手法で実施

パブリックコメントの募集結果は0件

➢反対意見がない=事業が伝わった上で肯定的に捉えられている

結果･考察

埋立事業の捉え方について

市の認識

- 自然環境への影響を避けられない一方で、その他の場所での環境破壊を回避し得る
- 自然博物館移転により、環境教育を受ける機会が増えて市民にもプラス面もある

結果・考察

公園利用者の年代と普段の公園利用

子育て世代の利用がほとんど

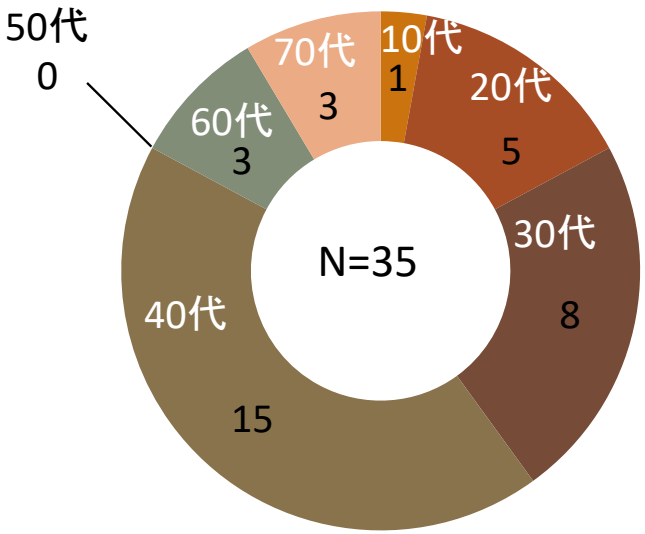


図　海南中央公園利用者年齢別割合

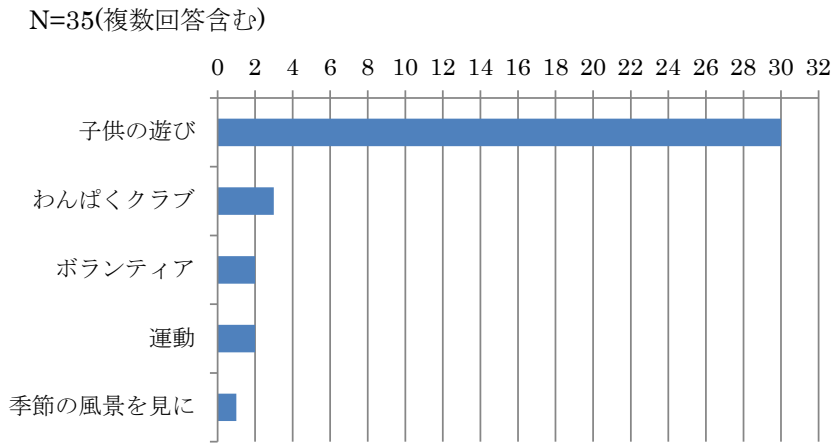


図　中央公園の利用方法

結果・考察

利用者の居住地・交通手段

海南市外からの利用者が全体の約8割を占める

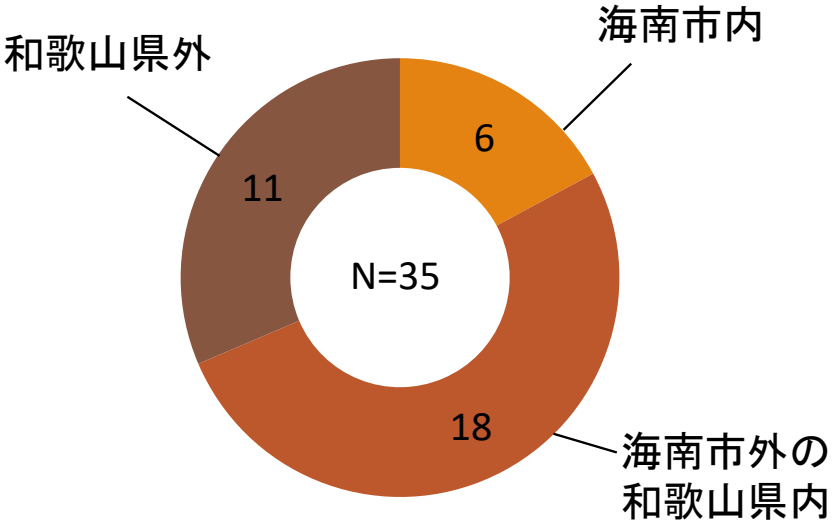
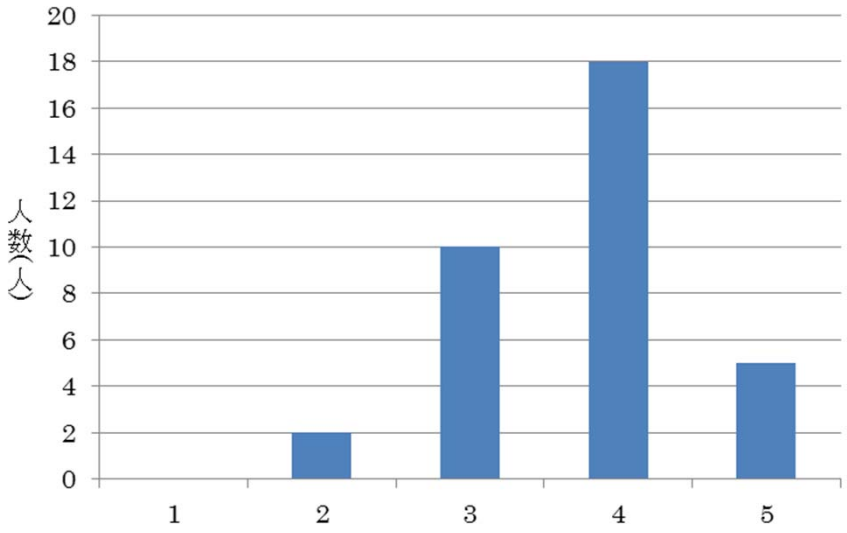


図　利用者の居住地

結果・考察

公園への愛着

利用者全体の66%が5点満点中「4」と「5」と高い評価

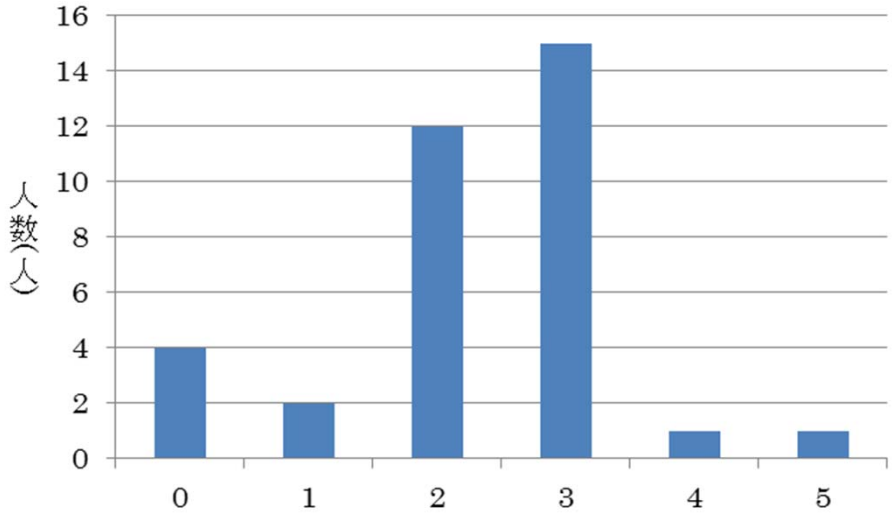


結果・考察

池に感じる魅力

概ね公園への愛着度よりも低めの評価

- 「0」という提示していない回答をする利用者が現れた
- 約5割の利用者の回答が「2」以下だった



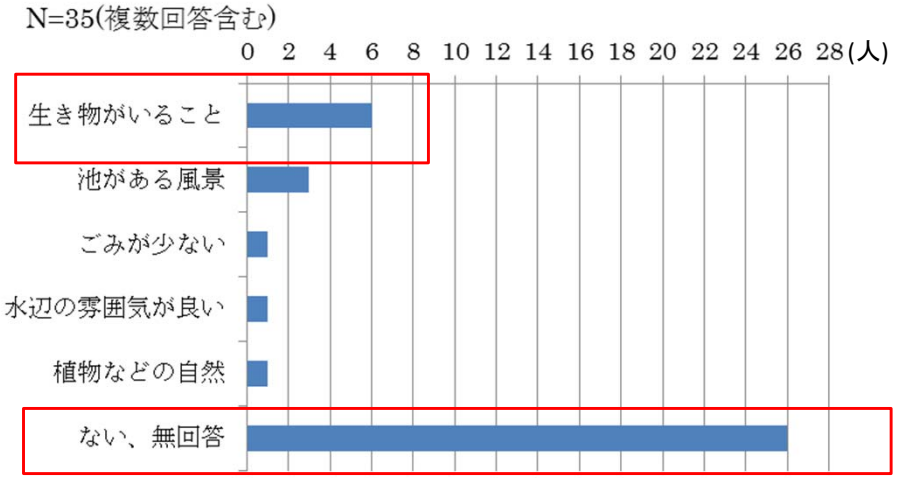


図　利用者が池に感じる魅力

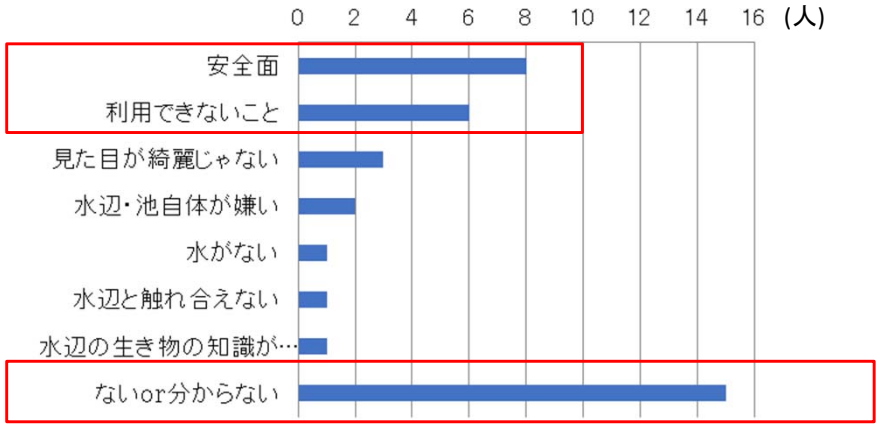


図　池が魅力的でない点

そもそも魅力を感じる点を回答した人は少ない
最も多い回答は「生き物がいること」

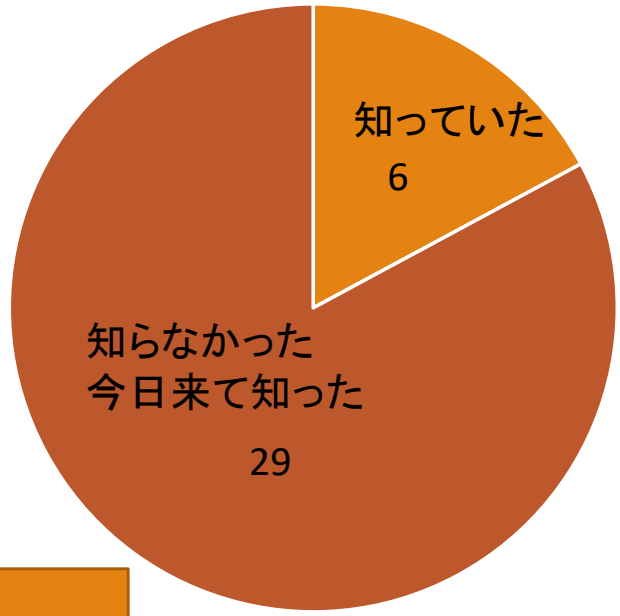
安全面での不安と利用できないこと

池に魅力を感じる利用者は池の非利用価値を、
魅力を感じない利用者は利用価値を重視している

結果・考察

池の埋立の認知状況

N=35



- 埋立を行うことを知らない利用者が約8割

  海南市内でも半数が知らない

- 事業の内容や生態系への影響を説明した後では、生態系価値に言及する回答が多くなる傾向がみられたが、利用者自身も言葉にはしづらい様子であった

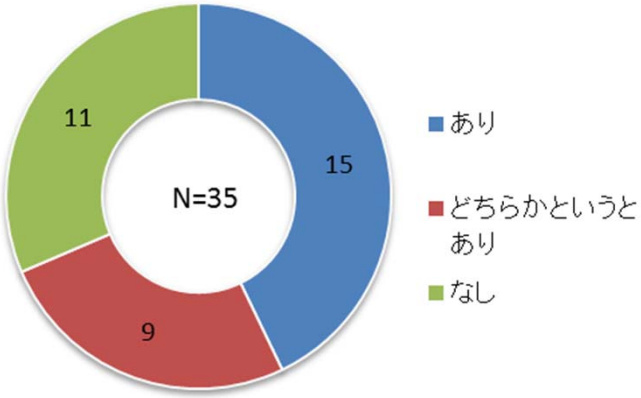
市が思うほど認知されていないし、
利用者も自身の複雑な気持ちは簡単には説明できない

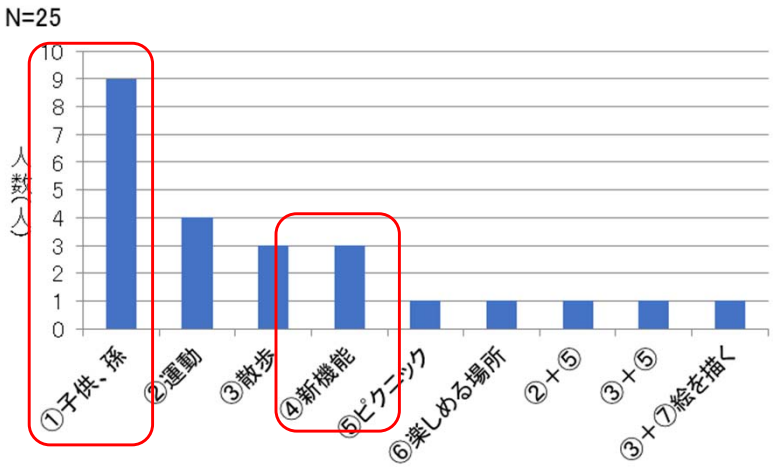
結果・考察

将来の公園像

将来の利用意志は約7割が「あり」「どちらかというとあり」

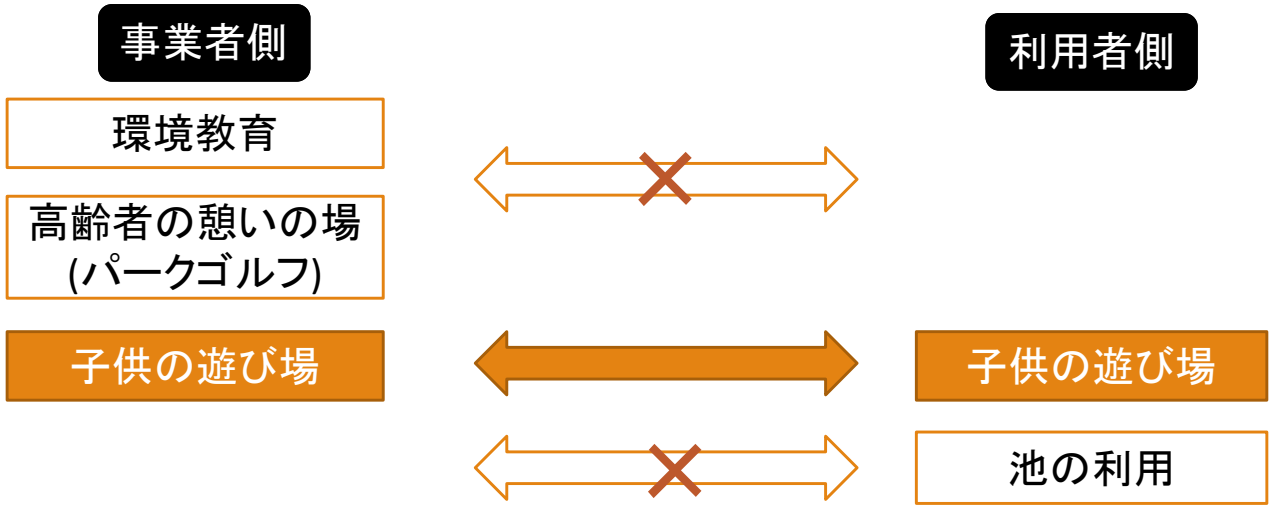
将来の利用方法は現在と同様、子どもを遊ばせることが多い





利用者のニーズは基本的に市の想定と一致しているが
新機能については異なる

まとめ



現状で利用者のニーズに基本的には則していると言える
今後行われる事業内容は市が思うほど認知されていない

まとめ

- 本事業は多様な主体を対象に、さまざまな手法で実施しており、利用者のニーズにも全体としては即している。
- しかし、インタビューの結果、利用者の多くがそもそも埋立を含む再整備事業の情報を持っておらず、利用者も、自身の複雑な気持ちは簡単には説明できないと推察された。

↓

画一的なアンケートやインタビュー調査では十分な把握ができない可能性がある

今後全国で発生すると考えられる大規模改変を伴う再整備事業については、
事業者による積極的な情報共有と、利用者への丁寧な聞き取りが必要

5. 引用・参考文献

1)松浦健治郎(2015)：住民主体の公園再整備における住民参加と利用・愛着の関係性に関する研究～三重県名張市つつじヶ丘地区を対象として
環境情報科学学術研究論文集 p.213-p.218
2)海南市：(仮称)海南市中央防災公園整備基本構想(http://www.city.kainan.lg.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/22/kouen-kihonkousou2.pdf)(最終閲覧日：2019年2月10日)
3)小林里菜子、坂井文(2008)：札幌市における都市公園再整備の変遷に関する研究：日本都市計画学会都市計画論文集No.43-3.p.583-p.588
4)三瓶由紀、阪口大介、原祐二(2015)：里山管理における指定管理者制度活用の実態と課題―近畿圏を事例として―
公益社団法人日本都市計画学会都市計画報告集No.14 p.187-p.191
5) 古賀貴典、坂本紘二、外井哲志、武林晃司(2003)：住民参加の公園づくりについて-ワークショップによるプロセスプランニングの事例として
土木計画学研究・論文集No.20.p.419-p.426
6)加藤悠介(2013)：インタビュー調査にもとづく近隣環境における高齢者の愛着場面に関する研究
日本建築学会計画系論文集Vol.78 No.687 p.997-1002
7)木村希、松行美帆子、中村文彦、三浦誌乃(2018)：中心市街地における公共空間の周辺エリアのイメージと回遊行動への影響に関する研究 南池袋公園をケーススタディとして
公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集Vol.53 No.3 p.341-p.348
8)塚田伸也、湯沢昭(2002)：住民意識から捉えた昇降園の評価構造に関する検討
日本都市計画学会学術研究論文集 No.37 p.907-p.912
9)浦山益郎、秋田道康、城本章広(1996)：居住環境資源としてみた溜池の利用効果と存在効果に関する研究
日本建築学会計画系論文集Vol.61 No.486 p.129-p.137
10)海南わんぱく公園ホームページ(http://wanpaku.pya.jp/)(最終閲覧日：2019年2月10日)
11)川根あづさ、澤木昌典(2003)：花や緑を題材とした住民参加型イベントにおける参加者の意識とその後の活動意向
ランドスケープ研究Vol.66 No.5 p.803-p.808